

衆議院科学技術・イノベーション推進特別委員会ニュース

【第 200 回国会】令和元年 11 月 27 日（水）、第 3 回の委員会が開かれました。

1 科学技術、イノベーション推進の総合的な対策に関する件

- ・科学技術、イノベーション推進の総合的な対策に関する実情調査のため、旭化成株式会社本社において視察を行った委員を代表して、津村委員長から報告を聴取しました。
- ・竹本内閣大臣（情報通信技術（IT）政策、知的財産戦略、科学技術政策及び宇宙政策担当）、中谷外務大臣政務官、青山文部科学大臣政務官、小島厚生労働大臣政務官及び政府参考人に対し質疑を行いました。
（質疑者） 関芳弘君（自民）、太田昌孝君（公明）、吉良州司君（立国社）、早稲田夕季君（立国社）、中島克仁君（立国社）、畑野君枝君（共産）、串田誠一君（維新）

（質疑者及び主な質疑事項）

関芳弘君（自民）

- （1） 吉野彰博士のノーベル化学賞受賞
 - ア 受賞に対する竹本内閣大臣の所感
 - イ ノーベル賞受賞者を輩出する後押しとなるような政府による支援策
- （2） 中国企業における技術革新力の増進
 - ア 日本企業との競争上、脅威となりうる中国企業の技術に関する政府の認識
 - イ 日本が世界との競争を勝ち抜くための今後の戦略的対策
- （3） 米中間の競争の激化が日本のサプライチェーンに及ぼす影響及びその対策

太田昌孝君（公明）

SNS、AI等を活用した災害対応

- ア AIを活用した自動会話プログラム（AIチャットボット）等のAI技術を用いることにより、効果的かつ効率的な災害対応が可能になるとの意見に対する竹本内閣大臣の見解
- イ 今般の令和元年台風第19号等の災害対応における「府省庁連携防災情報共有システム」（SIP4D）の活用実態及び「内閣府災害時情報集約支援チーム」（ISUT）の取組
- ウ SIP4Dに集約された情報を防災チャットボットへ連携することが、被災自治体における判断支援につながるのと意見に対する内閣府の見解

吉良州司君（立国社）

- （1） 国際協力プロジェクト「イベント・ホライズン・テレスコープ」の意義
- （2） 核融合反応を起こす元素ごとに発生するエネルギー量及びその実証の有無
- （3） 政府が理論の実証に取り組んでいる分野
- （4） 基礎研究予算増額及び若手研究者が自由に研究できる環境の必要性
- （5） 核融合技術
 - ア 現状と見通し
 - イ 核融合発電実用化の目途、課題及び安全性
- （6） 宇宙開発
 - ア 「はやぶさ」及び「はやぶさ2」プロジェクトの意義
 - イ 米国の宇宙週間のような宇宙等の科学に対する子供たちの関心を高めるイベントの必要性

早稲田夕季君（立国社）

- (1) 科学技術イノベーションの急速な発展に伴う科学技術の負の側面に対する対策
- (2) 高度情報通信ネットワーク社会の形成において懸念される格差と分断を生むことがないよう政府として慎重に対応する必要性
- (3) 持続可能な開発目標（SDGs）実施指針の改定にあたり Society5.0 の推進を経済成長戦略のみならず社会的課題の解決としても明記する必要性
- (4) 基礎研究推進のため国立大学法人運営費交付金を拡充する必要性
- (5) 企業が博士課程より修士課程の修了者を採用している現状に対する竹本国务大臣の所見
- (6) iPS細胞ストック事業を支援する予算の削減に関する京都大学 iPS細胞研究所山中伸弥所長の会見についての報道
 - ア 当初予定されていた 2022 年度までの支援の継続とその後の支援に関する検討の必要性についての文部科学省の見解
 - イ 本報道についての文部科学省及び内閣官房の認識
 - ウ 支援予算の削減についての政府内での議論の状況
 - エ 山中所長が会見に至った経緯
 - オ 透明性のある議論及び支援予算の必要性についての竹本国务大臣の見解

中島克仁君（立国社）

- (1) 我が国の科学技術分野の現状と課題及び国家戦略としての科学技術の位置付けについての竹本国务大臣の見解
- (2) 科学技術によって優先的に解決すべき社会的課題
- (3) 科学技術の将来を担う児童生徒の育成方策
- (4) がんゲノム医療
 - ア 我が国の現状と課題
 - イ がんゲノム情報センターが管理するゲノム情報の管理状況及び管理体制
 - ウ 検査により遺伝子異常が見つかった患者及びその家族が不当な差別を受けないようにするための法整備の検討状況
 - エ 海外におけるゲノム編集技術を用いた臨床応用研究についての竹本国务大臣の見解

畑野君枝君（共産）

- (1) 多様な才能を有する若手研究者が研究に専念できる環境整備の重要性についての竹本国务大臣の所見
- (2) 近年における博士課程入学者数の推移及び減少傾向にある原因
- (3) 多くの大学院生が研究とアルバイト等を両立せざるを得ない現状に対する文部科学省の見解
- (4) 第3期から第5期科学技術基本計画までに掲げられた「博士課程（後期）在籍者の2割程度が生活費相当額程度を受給できることを目指す」との目標の達成状況及び達成期限
- (5) 特別研究員制度の給付金額の増額及び対象枠の拡大を図るべきであるとの考えに対する文部科学省の見解
- (6) 博士課程の大学院生が研究活動において果たしている役割
- (7) 大学院生がアルバイト等に追われ研究に専念できない現状では大学院設置基準が規定する「高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養う」とする博士課程の目的を達成することは困難なのではないかとの考えに対する文部科学省の見解
- (8) 博士課程在籍者を自立した研究者として位置付けて処遇の改善を図る旨を第6期科学技術基本計画

等に明記する必要性

串田誠一君（維新）

- (1) 大学等における研究を支援するとともに産業界における研究への支援を強化する必要性
- (2) 災害救助時に活用される特殊車両
 - ア 特殊車両の概要
 - イ 水陸両用車の活用状況
 - ウ 一両編成と二両編成の水陸両用車の利点及び欠点
 - エ 水陸両用車を災害現場に移送するための手段
 - オ 水陸両用車の災害現場への移送車両を国や地方自治体が自ら保有することの妥当性
 - カ 特殊車両の購入主体
 - キ 国が購入した特殊車両を地方自治体に配置する際の基準
 - ク 汎用性が乏しい特殊車両を製造する民間企業に対する支援の必要性
 - ケ 災害時に被災状況を把握するための無人航空機等の導入状況
- (3) 天皇陛下の即位を祝う祝賀御列の儀（パレード）における警備システムの反省点及び課題